

調査の概要

1 調査の目的

主要産業における入職・離職及び未充足求人状況並びに入職者・離職者に係る個人別の属性及び入職・離職に関する事情を調査し、雇用労働力の産業、規模、職業及び地域間の移動の実態を明らかにすることを目的とする。

2 調査の範囲

(1) 地域

全国

(2) 産業

日本標準産業分類（平成25年10月改定）に基づく次の16大産業

鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業（その他の生活関連サービス業のうち家事サービス業を除く。）、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業、サービス業（他に分類されないもの）（外国公務を除く。）

(3) 事業所

事業所母集団データベース（平成30年次フレーム）の事業所を母集団として、上記（2）に掲げる産業に属し、5人以上の常用労働者を雇用する事業所のうちから、都道府県、産業、事業所規模別に層化して無作為に抽出した約15,000事業所

(4) 入職者

令和3年1月から6月中に、上記（3）に属する事業所に入職した常用労働者のうちから、無作為に抽出した入職者

(5) 離職者

令和3年1月から6月中に、上記（3）に属する事業所を離職した常用労働者のうちから、無作為に抽出した離職者

3 調査の時期

令和3年1月から6月までの状況について、事業所調査は令和3年6月18日から7月12日までの間に、入職者調査及び離職者調査は令和3年7月9日から8月26日までの間に調査を実施した。

4 調査事項

(1) 事業所調査

- ア 事業所の属性及び企業全体の常用労働者数
- イ 性、雇用形態及び就業形態別常用労働者の異動状況
- ウ 性、年齢階級及び就業形態別常用労働者数
- エ 職業及び就業形態別常用労働者数及び未充足求人数

(2) 入職者調査

- ア 属性に関する事項
 - 性、年齢、最終学歴及び卒業時期
- イ 入職に関する事項
 - 求職活動でのインターネットの利用の有無、入職経路、就業形態、職業、前職の有無、入職前の勤め先の所在地又は入職前の居住地及び現在の勤めの有無

ウ 前職に関する事項

産業、職業、従業上の地位、離職期間、企業規模、前の勤め先を辞めた理由、現在の勤め先を選んだ理由及び転職による賃金変動状況

(3) 離職者調査

ア 属性に関する事項

性、年齢階級、最終学歴及び卒業時期

イ 離職直前の雇用状況に関する事項

就業形態、職業、勤続期間及び離職理由

5 調査の方法

(1) 事業所調査（事業所票）

厚生労働省が委託した民間事業者が調査対象事業所に対して、郵送により事業所票を配布した。調査対象事業所が記入後、郵送又はオンラインにより委託した民間事業者に返送した。

(2) 入職者調査（入職者票）

厚生労働省が委託した民間事業者が回収事業所票から調査対象入職者数を算出し、調査対象事業所に対して、郵送により調査対象入職者への入職者票の配布を依頼した。調査対象入職者が記入後、郵送又はオンラインにより厚生労働省に返送した。

(3) 離職者調査（離職者票）

厚生労働省が委託した民間事業者が回収事業所票から調査対象離職者数を算出し、調査対象事業所に対して、郵送により離職者票を配布した。調査対象事業所が記入後、厚生労働省に返送した。

6 集計・推計方法

(1) 事業所調査（事業所票）

産業、事業所規模等の各区分ごとに復元倍率を算出し、復元倍率を用いて集計した結果から構成比等を算出した。

(2) 入職者調査（入職者票）

産業、事業所規模等の各区分ごとに入職者の復元倍率を算出し、(1)及び入職者票の復元倍率を用いて集計した結果から構成比等を算出した。

(3) 離職者調査（離職者票）

産業、事業所規模等の各区分ごとに離職者の復元倍率を算出し、(1)及び離職者票の復元倍率を用いて集計した結果から構成比等を算出した。

7 調査系統

(1) 事業所調査 厚生労働省－民間事業者－報告者

(2) 入職者調査 厚生労働省－民間事業者－事業所調査対象事業所－報告者

(3) 離職者調査 厚生労働省－民間事業者－報告者

8 調査対象数、有効回答数及び有効回答率

事業所調査：調査対象数 15,477 事業所

有効回答数：9,030 事業所

有効回答率：58.3%

入職者調査：集計入職者数 36,548 人

離職者調査：集計離職者数 40,579 人